

プレスリリース
PRESS RELEASE

2018-10-05

アーツ前橋
ARTS MAEBASHI

アーツ前橋開館 5 周年記念企画展
岡本太郎と『今日の芸術』

絵はすべての人の創るもの

2018 年 10 月 5 日（金）～2019 年 1 月 14 日（月・祝）



アーツ
ARTS
前橋
MAEBASHI

概要

『太陽の塔』やTV・ラジオ出演などを通じて文化的アイコンとなった岡本太郎。彼は戦後に数多くの芸術論を残し、とりわけ1954年の著作『今日の芸術』は、創造的に生きるための入門書として、美術書としては異例のベストセラーとなりました。

太郎は本書において、「芸術は万人によって、鑑賞されるばかりでなく、創られなければならない」と述べました。自分たちの感性で芸術に触れ、自分たちの手で文化を作り上げていくことを訴えかけたメッセージは、同時代の若者や芸術家を挑発しました。

本展では、太郎が『今日の芸術』以降、戦後社会に与えたインパクトを検証します。岡本太郎の作品・映像資料のほか、彼に刺激を受けた芸術家たちの作品を通し、今もなお私たちを鼓舞する太郎の思想を読み解きます。

2018年3月には、前橋・広瀬川河畔に『太陽の鐘』が設置されました。「森羅万象が叫ぶような、あらゆる音を立てる*」鐘とともに、岡本太郎の世界を体感してみませんか。

*ドキュメンタリー「現代の主役」(1966年、TBS制作)より



【図1】太陽の鐘 撮影：木暮伸也

開催概要

- 【展覧会名】** ・アーツ前橋開館5周年記念企画展
　　岡本太郎と『今日の芸術』 絵はすべての人の創るもの
　　・岡本太郎と『今日の芸術』 ※略称
- 【会期】** 2018年10月5日(金)～2019年1月14日(月・祝) 81日間
※会期中、一部展示替えあり
- 【開館時間】** 11:00～19:00（入場は18:30まで）
- 【休館日】** 水曜日、年末年始（12月28日(金)～1月4日(金)）
- 【会場】** アーツ前橋(群馬県前橋市千代田町5-1-16)
- 【観覧料】** 一般 600円／学生・65歳以上・団体(10名以上) 400円／高校生以下無料
※10月5日(金)～30日(火)はアーツ前橋の開館5周年を記念して入場無料。
※1月7日(月)は太郎の命日のため入場無料。
※障害者手帳等をお持ちの方と介護者1名は無料。
※以下のいずれかの条件に該当の方は、観覧料が400円。
1)トワイライト割：17時以降にご来場された方
2)太陽の鐘割：携帯電話やカメラで《太陽の鐘》を撮影した写真を受付で提示した方
- 【主催】** 前橋岡本太郎展実行委員会
- 【共催】** アーツ前橋
- 【協賛】** 太陽の会
- 【助成】** 自治総合センターシンポジウム助成金
- 【協力】** 岡本太郎記念館、川崎市岡本太郎美術館
- 【後援】** 上毛新聞社、朝日新聞社前橋支局、毎日新聞前橋支局、読売新聞前橋支局、産経新聞前橋支局、東京新聞前橋支局、日本経済新聞社前橋支局、共同通信社前橋支局、時事通信社前橋支局、NHK前橋放送局、群馬テレビ、FM GUNMA、まえばしCITYエフエム、前橋商工会議所、総務省
- 【出品作家】**
岡本太郎／赤瀬川原平／池田龍雄／北代省三／篠原有司男／関口光太郎／高松次郎／
立石大河亞／パブロ・ピカソ／アンリ・マティス／村上善男／ヤノベケンジ／横尾忠則
ほか

岡本太郎（1911～1996）

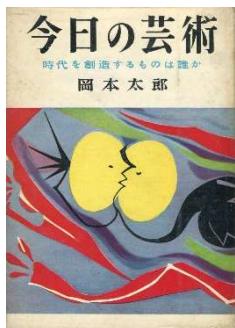
1911年、漫画家の岡本一平、歌人・小説家の岡本かの子の長男として生まれる。1929年に東京美術学校（現・東京藝術大学）に入学。翌年からパリに滞在。最新の美術動向に触れると同時に、民族学やジョルジュ・バタイユの思想に触れる。1942年から兵役に就く。戦後は東京・世田谷にアトリエを構え、絵画・立体作品とともに多数の著作を発表。1954年に著した『今日の芸術』はベストセラーとなる。『縄文土器論』ほか、日本の伝統についての著作活動が旺盛になり、日本各地を取材する。1970年の日本万国博覧会のテーマ館プロデューサーを務める。テレビやマスメディアにも精力的に出演し、晩年まで多方面にわたり活躍した。1996年1月死去。



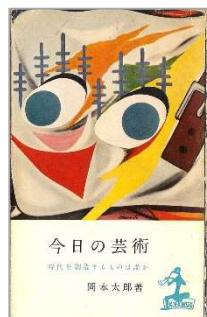
『日立マクセルビデオカセット』釣鐘編
(1981年頃放映)より
協力・マクセル株式会社

『今日の芸術』とは

1954年に刊行された岡本太郎の代表的著作。10万部を超えるベストセラーとなった。中学2年生にもわかるやさしい言葉遣いと熱を帯びた筆致で、美術作品との向き合い方、日本文化や、生活文化を打ち立てるための心がまえを説いた。度重なる再刊と再録によって今日まで読み続けられ、芸術家の横尾忠則など、多くの文化人に影響を与え続けている。



1954年版



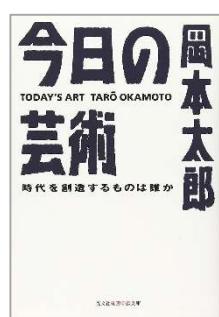
1955年版



1963年版



1973年版



1999年版

本展の見どころ

1. 戦後最強の美術入門書『今日の芸術』を体験する

『今日の芸術』の中には、美術と親しむためのヒントがちりばめられています。「今日の芸術は、うまくあってはいけない。きれいであってはならない。ここちよくあってはならない。」等のことばは、現在広く浸透し、私たちの芸術観を形作っているといつても過言ではないでしょう。本展では、このベストセラーに書かれた「ことば」を随所にちりばめ、作品と資料を通して、『今日の芸術』を再構成しています。まだ本を読んだことがない方でも、『今日の芸術』を体験していただけます。

2. 岡本太郎の代表作が並ぶ展示空間

国内の各美術館の協力を得て、1954年前後から晩年に至るまでの岡本太郎の代表作を50点以上展示いたします。初期の代表作《コントルポアン》や《犬》などの絵画作品のほか、《太陽の塔》の模型など多くの方に親しまれているパブリックアートに関わる資料を通して、岡本太郎の活動の軌跡をたどります。同時に『今日の芸術』の原稿をはじめとする執筆資料から、作品発表と言論活動の両面で自らの芸術観を示していた太郎の姿を紹介します。

3. 太郎の思想を継承し、挑み続ける作家たちの紹介

『今日の芸術』に記された岡本太郎の美学は当時の読者たちを鼓舞し、美術家たちも大いに触発されました。本展示では、横尾忠則や赤瀬川原平、ヤノベケンジなど、太郎の作品や思想に触れ、挑むように作品を発表している多彩な作家たちの作品を紹介します。前橋市出身で第15回岡本太郎現代芸術賞（T A R O賞）受賞者の関口光太郎は、太陽の塔のエッセンスを吸收しながら、地下ギャラリーから地上へと伸びる新作を発表します。

4. マルチタレント・太郎と出会う

岡本太郎は、出版をはじめ、戦後間もない時期からテレビ・ラジオなどのマスメディアに出演し、お茶の間の人気者となりました。会期中、太郎が出演したコマーシャルやテレビ番組の貴重な映像を上映し、そのジャンル横断的な活躍を紹介します。アーツ前橋上階の映画館「前橋シネマハウス」では、太郎自らが出演した『誘惑』（監督：中平康、1957年）や、登場する怪獣のキャラクターデザインを行った『宇宙人東京に現わる』（監督：島耕二、1956年）、今年公開の映画『太陽の塔』（監督：関根光才、2018年）を上映予定です。大衆文化に接近しながら自らの思想を伝えようとした太郎の姿をご覧ください。

関連イベント

① 岡本太郎と『今日の芸術』関連シンポジウム

芸術なんて、なんでもない

太郎の研究者や、彼に影響を受けた文化人たちをゲストにお招きし、シンポジウムを開催します。

日時：10月7日(日) 14:00～17:00

第1部 基調講演 14:00～15:00

山下裕二「岡本太郎・縄文・日本美術史」

第2部 トークセッション 15:30～17:00

「岡本太郎とは何だったのか」

登壇者 山下裕二 タナカカツキ ANI（スチャダラパー） 春原史寛

会場：前橋テルサ 2階ホール（群馬県前橋市千代田町2-5-1）

参加費：無料

申込み：アーツ前橋へ電話(Tel.027-230-1144)

② 記念講演会「岡本太郎と読む『今日の芸術』」

日時：11月11日(日) 14:00～16:00

会場：アーツ前橋 1階スタジオ

ゲスト：春原史寛（本展企画協力）

参加費：無料

定員：40名

申込み：アーツ前橋へ電話(Tel.027-230-1144)

③ 前橋に太陽の鐘が鳴る

前橋市の広瀬川河畔に設置された《太陽の鐘》を特別に鳴らすことができます。

日時：12月2日(日) 13:00～14:00

定員：100名

申込み：アーツ前橋へ電話(Tel.027-230-1144)

④ 学芸員によるギャラリーツアー

日時：10月21日(日)、11月17日(土)、12月15日(土) 14:00～14:30

会場：アーツ前橋 ギャラリー

参加費：無料

※申込み不要 ※11月17日(土)、12月15日(土)は要観覧券

⑤ 映画館で太郎に出会う

岡本太郎自らが出演し、また、登場するキャラクターデザインを行った映画を上映します。

上映作品：『宇宙人東京に現わる』（監督：島耕二、1956年）

『誘惑』（監督：中平康、1957年）

会場：前橋シネマハウス（アーツ前橋と同じ建物の3階）

※詳しい上映情報はアーツ前橋HPに掲載予定です。

同時上映：『太陽の塔』（監督：関根光才、2018年）

上映日程：2018年10月13日(土)～

※同時上映作品の詳しい上映情報、関連イベントは前橋シネマハウス（027-212-9127）にお問い合わせください。



『宇宙人東京に現わる』
©KADOKAWA1956



『誘惑』
©日活



『太陽の塔』
©2018 映画『太陽の塔』製作委員会

同時開催企画

- 【展覧会名】 アーツ前橋開館5周年記念 つまずく石の縁 - 地域に生まれるアートの現場 -
- 【会期】 2018年10月12日(金)～11月4日(日) ※会期中の金土日のみ 12日間
- 【開場時間】 11:00～18:00
- 【会場】 前橋中心商店街ほか
- 【観覧料】 600円 ※会期中何度でも使えるパスポート制
- 【主催】 アートによる文化交流推進実行委員会、前橋中心商店街協同組合
- 【共催】 アーツ前橋

プレスレビュー

日 時：10月4日(木) 14:00～19:00(※最終入場は18:30まで)
会 場：アーツ前橋
(※プレス向け作品解説会は14:30～15:30を予定)

出版物

出版当初の判型にちなんだ片手に収まるサイズのカタログです。出品作品の図版ほか、岡本太郎研究者らによる『今日の芸術』の解題、ゲスト執筆者によるエッセイ、ブックガイド等を収録。

仕 様：新書版、176頁

発 行：現代企画室

価 格：未定

デザイン：鈴木成一デザイン室

執 筆 者：石井匠（インディペンデントキュレーター）/岩田ゆず子（東京国立近代美術館研究補佐員）/
大杉浩司（川崎市岡本太郎美術館学芸員）/小金沢智（太田市美術館・図書館学芸員）/
春原史寛（本展企画協力）/成相肇（東京ステーションギャラリー学芸員）、ほか
※五十音順

発 行 日：10月上旬、現代企画室より発刊

主な展示作品



【図2】岡本太郎《犬》1954年
川崎市岡本太郎美術館蔵



【図3】岡本太郎《コントルポアン》 1935/54年
東京国立近代美術館蔵



【図4】岡本太郎《憂愁》1947年
一般財団法人草月会蔵（東京都現代美術館寄託）



【図5】岡本太郎《足場》1952年
一般財団法人草月会蔵（東京都現代美術館寄託）
©内田芳孝

記事掲載についてのお願い

- 掲載にあたっては、展覧会名称と会期を表記してください。
- 画像等を掲載する場合は、キャプション・クレジット等を正確に表記してください。
- 掲載記事やVTRは資料として保管いたしますので、アーツ前橋までご送付ください。
- 取材、収録等は必ず事前にお問い合わせください。

お問い合わせ

アーツ前橋

前橋市役所文化スポーツ観光部文化国際課 担当：若山(学芸担当)、堺(広報担当)

〒371-0022 群馬県前橋市千代田町 5-1-16

TEL : 027-230-1144 FAX : 027-232-2016 URL : <http://www.artsmaebashi.jp/>

Email : artsmaebashi@city.maebashi.gunma.jp

交通案内

アーツ前橋

[公共交通機関]

JR 前橋駅から徒歩約 10 分

上毛電鉄 中央前橋駅から徒歩約 5 分

[自動車]

関越自動車道 前橋 I.C から車で約 15 分



※アーツ前橋では、Pマークの駐車場のご利用に関しては、駐車券に4時間無料の割引処理をいたします。

「アーツ前橋開館5周年記念企画展

岡本太郎と『今日の芸術』 絵はすべての人の創るもの 広報用画像申込書

アーツ前橋 広報担当宛 FAX 027-232-2016

ご希望の画像の番号に○を付けてください。画像(JPEG)をメールにてお送りいたします。

*本展覧会の広報を目的とする場合に限り、ご提供いたします。個人のブログへの掲載や鑑賞等を目的とする場合にはご提供できません。

*掲載にあたっては、キャプション・クレジット等を正確に表記してください。

番号	キャプション・クレジット等
1	太陽の鐘 撮影：木暮伸也
2	岡本太郎《犬》1954年 川崎市岡本太郎美術館蔵
3	岡本太郎《コントルポアン》 1935/54年 東京国立近代美術館蔵
4	岡本太郎《憂愁》1947年 一般財団法人草月会蔵（東京都現代美術館寄託）
5	岡本太郎《足場》 1952年 一般財団法人草月会蔵（東京都現代美術館寄託） ©内田芳孝

◎読者プレゼント用招待券(5組 10名様) 希望します 希望しません

媒体情報 *できるだけ詳しくご記入ください。

掲載	
媒体：	
発行日：	発行元：
貴社名：	
部署名：	担当者名：
所在地：	〒
T E L :	F A X :
E - M A I L :	